

壁紙施工要領書

- スポンジエース TP -

■ 特長

- ・ スポンジエース TP は、テープ掲示板用の内装材です。バックリングは紙裏になっています。
- ・ 防火対応品で、石膏ボード下地との組合せで「準不燃」仕上げとなります。
- ・ 一般のビニル壁紙にくらべ、やや硬い傾向があります。そのためカールの発生や、寒冷時は出入隅部などの納まりが悪くなる場合があります。そのため、一般ビニル壁紙に比べ施工難易度が高く、施工費が割増になる場合があります。
- ・ フィルムによるツヤがありますので、天井は、壁面よりも光の加減で下地が見えやすく、不向きです。あらかじめご了承ください。

■ 下地調整

- ・ 施工後の、下地の不陸の目立ちを避けるために、下地はできるだけ平滑に仕上げるようにしてください。
- ・ ネジ、釘類には錆止めを施してください。施工後の錆による変色を防ぎます。
- ・ 下地と同色の樹脂入りパテを使用するようにしてください。強度の弱いパテはハガレの原因となります。
- ・ 湿式工法による下地（コンクリート、モルタルなど）や、パテ・シーラーを施した場所は十分に乾燥（水分率11%以下）していることを確認してください。未乾燥状態での施工は壁紙の変色やカビの発生を招くことがあります。
- ・ ケイカル板、粉ふき下地、ペンキ下地、化粧板、パーテーション等、接着性の悪い下地は必ず下地別のシーラーを塗布してください。シーラーは下地を補強し壁紙のハガレや目開きを防ぎます。
- ・ コンクリート・モルタル下地、ベニヤ・合板下地、金属下地でも、必ず下地別のシーラーを塗布してください。壁紙と下地の間に皮膜を形成し、下地からのアクによる壁紙の変色を防ぎます。

■接着剤と養生・オープンタイム

- ・接着剤は、でん粉系のものを使用し、下地との接着強度アップのため、ボンド配合のもの（ヤヨイ化学工業製「ルーマイルド」、ウォールボンド工業製「グルー96α」等）を濃い目（糊：水＝10：7を目安）にしてください。
- ・接着剤塗布後は、うませ時間を20～30分程度とって作業を進めてください。冬季・低温時には後伸びによるフクレを防ぐため少し長めにとってください。
- ・接着剤塗布後はタタミジワが付かないよう大きくたたみ、上積みは避けてください。フィルムが折れてしまいタタミジワが発生する場合があります。

■張り付け・ジョイント

- ・一般的な塩ビ壁紙に比べてややカール癖がつきやすい傾向があります。特に芯に近い部分や寒冷地では材料を逆巻きにする等、カール癖を取ってから施工するようにしてください。
- ・なかなかカール癖が取れない場合は、ジョイント部分にエチレン酢ビ系ボンド（ヤヨイ化学工業製「プラゾールSS」等）を原液で捨て糊する等の処置を施してください。
- ・吸水性の低い下地（シーラー塗布面、化粧板、金属板、コンクリート等）に施工する場合は、プラスチック製のヘラを使用し繰り返し何度もエア抜きを行なってください。接着剤の水分を下地が吸収しにくいために、あと伸びによるフクレが発生することがあります。
- ・石膏ボード下地等で重ね裁ち（ダブルカット）を行なう場合は、下地まで切り込まないようにしてください。目開きの原因となります。（壁紙と下地の間に下敷きを入れる、和紙テープを張り込む、といった注意が重ね裁ちの場合は必要です。）
- ・ローラー掛けは、あまり強く押し付けたり片側だけに力をかけ過ぎないでください。癖が残ったり傷や光沢の原因になります。
- ・なで付け、エア抜きの際に力を入れて横なでをすると乾燥後目開きの原因になることがあります。
- ・5℃以下の環境では糊の接着力が弱くなり、フクレや施工不良の原因となります。また、壁紙自体も硬くなりますのでご注意ください。

■コーナー材の使用について

- ・コーナー材を使用する場合は、穴あきタイプが有効です。穴あきタイプ以外では接着剤が乾燥せず、壁紙が浮いたり、カビ発生の原因となる場合があります。ただし、穴あきタイプをご使用の場合でも使用環境や施工状況によっては、壁紙の浮きやカビが発生する場合があります。あらかじめご了承ください。

■施工後

- 施工後は接着が安定するまで自然乾燥させてください。特に、冷暖房などによる急激な室温の変化は避けてください。目開き、はがれの原因になります。
- 施工後は接着剤の拭き残しがないよう、きれいに拭き取ってください。拭き取りが不十分な場合、変色の原因になることがあります。なお、拭き取る際は、きれいな水に頻繁に替えながら濡れスポンジなどでていねいに拭き取り、更にキレイなタオルなどで拭き取ってください。